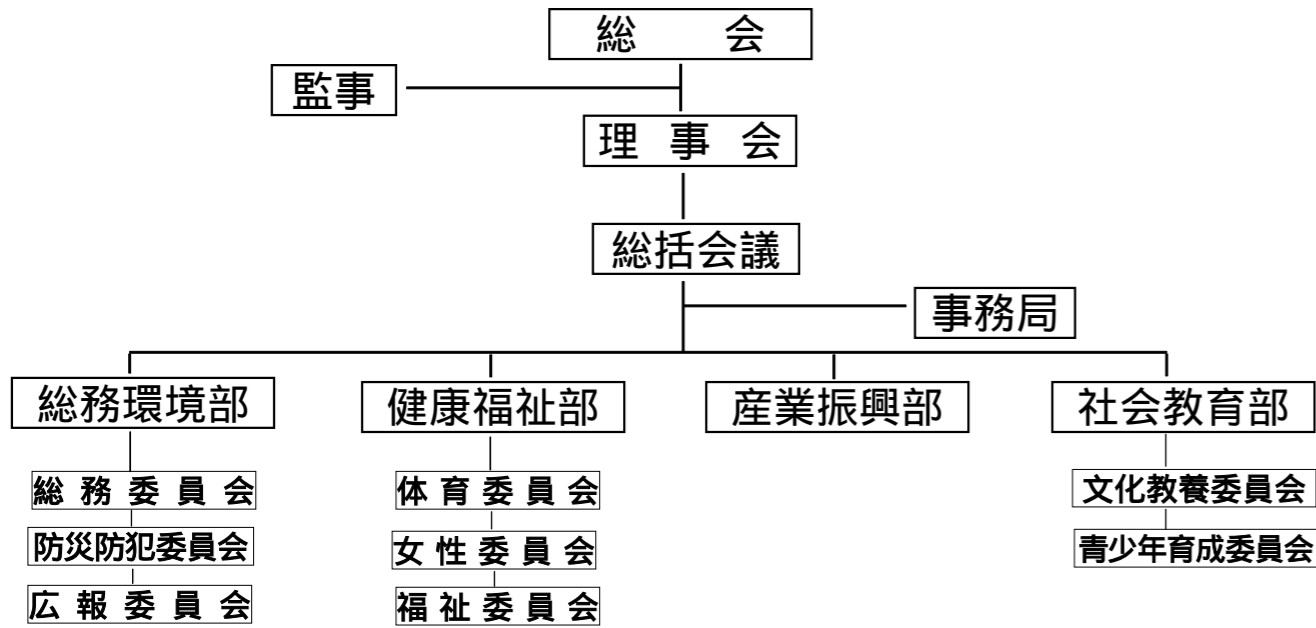


一之宮町まちづくり協議会組織図



一之宮町まちづくり協議会役員名簿

理事														計	事務局	監事	副会長	副会長	会長	役員									
部会長							町内会長																						
三木 忠裕	町川 克己	洞口 和美	島野 芳規	牧田 智	下本 はつ子	南 あやの	向 良廣	中島 玲子	内木 良文	小野 和栄	野口 洋子	古川 卓	日比野 法夫	新田 善勝	野中 五十八	野添 克良	新家 一利	伊藤 健生	大森 治良	洞口 真人	内藤 重光	山腰 まみ子	伴場 敏彦	畑中 道子	谷口 誉憲	三宅 良一	岩畑 正義	田邊 重敏	日影
山下	山下	東	山下	山下	山下	中央	東	本通	一之宮	東	山下	一之宮	東	本通	本通	中央	位山	位山	位山	東	東	山下	山下	本通	位山	山下	位山	中央	町内
駅前	山上下	洞下	山上下	山上下	山上下	南	洞下	本通上	宮川	問坂下	山上下	宮川	洞上	洞上	野上	寺元	寺元	寺元	寺元	洞上	問坂上	山上下	公民館内常勤	本通上	奥	山下	奥	奥	班

社会教育部				産業振興部				健康福祉部				総務環境部																	
委員長	伊藤 健生	副委員長	早船 美樹	委員長	町川 克己	副委員長	黒木 美穂	委員長	大森 治良	副委員長	内木 良文	委員長	田玉 昌明	副委員長	坂本 陽子	委員長	桐山 久子	副委員長	黒木 義弘	委員長	新田 善勝	副委員長	黒木 甚右工門	委員長	山腰 進	副委員長	野口 洋子	副委員長	野添 克良
青少年育成委員会	伊藤 健生	伊藤 健生	伊藤 健生	町川 克己	町川 克己	黒木 美穂	黒木 美穂	大森 治良	大森 治良	内木 良文	内木 良文	田玉 昌明	田玉 昌明	坂本 陽子	坂本 陽子	桐山 久子	桐山 久子	黒木 義弘	黒木 義弘	新田 善勝	新田 善勝	黒木 甚右工門	黒木 甚右工門	山腰 進	山腰 進	野口 洋子	野口 洋子	野添 克良	野添 克良
奥	寺元	奥	寺元	山下	山下	位山	位山	東	東	一之宮	一之宮	位山	位山	中央	中央	本通	本通	位山	位山	本通	本通	位山	位山	山下	山下	山下	山下	中央	野上

意見・要望の反映と現状周知、安全・安心一丸となって協働のまちづくり目指したい

総務環境部会長 内藤 重光

「広報」の三委員会を構成し、町内会長・消防団・自主防災・地域安全協議会等で組織されています。町内の意見・要望などを協議会に反映させ、現状を町内に周知し、また、町民の「安全・安心」にかかわる重要な位置にあります。

しかし、「協働のまちづくり」は一部の役員やリーダーで成り立っていくものではありません。皆様の行事への積極的な参加や、より多くの方々のご意見をいただき、一之宮町が一丸となる「協働のまちづくり」を目指していきたいと思えます。

仕組みを考え直し、試行錯誤しながら希薄になったつながりについて議論したい

産業振興部会長 大森 治良

節目の年を迎え、今一度一之宮町の様々な仕組みや思いを考え直すのが協働のまちづくりではないかと思えます。初めての試みなので試行錯誤しながら進めていかなければなりません。

葬儀も式場で行い、祭りの呼び引きも少なくなり、組の常会も一部ではやらなかったりと地域のつながりが希薄になってきました。協働のまちづくりは、希薄になったつながりについて町内総参加で議論し考え、実行していくことだと思えます。産業部会ではさまざまな団体、グループに参加・協力していただき進めていきたいと思っています。

健康・福祉・スポーツ通じて町民の心と身体の健康づくりに貢献

健康福祉部会長 洞口 真人

健康福祉部は、各班の体育委員や女性委員、長寿会の皆さんも係わる部会です。社会福祉協議会にも協力いただきながら、名の通り、健康と福祉、スポーツに関する事業を計画・実行していきます。基本的にはそれぞれの団体で行ってきた行事等を継承しつつ、新しい行事も模索して行くつもりです。

文化・青少年育成活動通じて子どもから高齢者まで住みやすい地域に

社会教育部会長 伊藤 健生

社会教育部は「文化教養委員会」と「青少年育成委員会」の2つの委員会で構成されています。文化教養委員会は文化祭、生涯学習講座等の企画・運営を行い、青少年育成委員会は、スクールサポートなどの一之宮町の子どもの見守り活動の充実とサタデイサークル(体験土曜教室)の企画・運用の発展をさせて行きます。

この部会は、地域の方々、特に文化及びボランティア活動団体、子ども会等の団体、宮保育園・宮小中学校の教職員、PTA・保護者の皆様の協力が不可欠です。ご協力を宜しくお願い致します。子どもからお年寄りまでの地域の方々、文化的で住みやすい生活の環境確保の一翼を担うことが出来れば幸いです。

この部会は、地域の方々、特に文化及びボランティア活動団体、子ども会等の団体、宮保育園・宮小中学校の教職員、PTA・保護者の皆様の協力が不可欠です。ご協力を宜しくお願い致します。子どもからお年寄りまでの地域の方々、文化的で住みやすい生活の環境確保の一翼を担うことが出来れば幸いです。

被災地報告会・講演会

6月4日宮中で 聴講自由

女川町出身で、震災後、高山に移住され、現在、国府町でレストランを経営されている末永賢治氏を講師に迎え、被災地の現状と復興に向けた取り組みについて、講演していただきます。

講演は宮中の授業の中で行われます。町民の方も自由に聴講できます。

日時：6月4日(水) 10時30分

臥龍桜日本画大賞展

25周年記念講演会

平成2年から始まった「臥龍桜日本画大賞展」が今年度25周年を迎えるにあたり、初回より審査員を務めていただいている日本画家の伊藤嘉晃先生と、国の天然記念物「臥龍桜」の復活に尽力いただいた岐阜大学名誉教授であり樹木医の林進先生の講演会を開催します。

開催日は7月を予定しています。詳細は後日お知らせします。

千代田区交流記念事業

「千代田区環境エコツアー」

9月実施 町民参加者募集

平成24年6月、東京都千代田区と高山市は「森林整備に係る協定」を締結し、一之宮町内の市有林整備に対し、千代田区からも支援を受けています。

この協定を契機に、環境分野以外での交流も目的に、今年度は、日本画大賞展の東京展を千代田区内にある日比谷図書文化館において開催します。

あわせて、日比谷図書文化館に隣接する飯野ビルにおいて「飛騨高山フェア」として、飛騨高山の産直野菜や特産品の販売を行います。

まちづくり協議会においても、このイベントを盛り上げるため、同時期に、町民を募集して応援ツアーを開催します(ツアーでは監視員なども視察予定です)。

なお、飯野ビルに建設中の「イイノ森」には、荘川桜と臥龍桜2世を植樹予定です。植樹には一之宮町のセラミック炭も使われます。

日時：9月10日(水) 11日(木) 予定参加費20,000円(町民は助成対象となります) 詳細については後日お知らせします。

公民館から

6月の公民館休館日	6月9日(月) 23日(月)
6月の交流館休館日	6月9日 16日 23日 30日 以上月曜

社教と連合町内会が総会 「まち協」に事業移管承認



最後となった一之宮町社教総会の様子

一之宮町社教が、新しく設立される一之宮町まちづくり協議会（まち協）に機能を移管して解消することとなり、最後の総会が4月22日に開催されました。

議事では平成25年度の事業報告と収支決算が承認され、指定管理としての一之宮町社教を存続させるほか、事業や繰越金をまちづくり協議会が引き継ぐことを条件に解散することが承認されました。

一方、一之宮地区連合町内会総会も4月10日に開催されました。総会では平成25年度の事業報告と収支決算を承認するとともに、一之宮町まちづくり協議会に事業を移管することが承認されました。

宮小6年生がガイド 満開の臥龍桜に花添える

宮小学校6年生による臥龍桜のガイドが今年も4月23日に午前の授業の時間を使って行われました。

臥龍公園では28人が6班に分かれて、ほぼ満開に咲いた桜をパツクに、イラストなどを使って、臥龍桜のいわれや歴史、特に台風の被害を克服して見事に再起を果たした話などを説明しました。



観光客らを前に臥龍桜のガイドを行う小学生

宮路でてくてくウォーキング 300人が新緑の中快歩

第7回となる飛騨高山ふるさと発見「てくてくウォーキング」が5月11日、一之宮町を会場に行われました。高山市スポーツ推進委員会が主催して毎年行われている行事です。

一之宮では、7キロの「満喫コース」と3.5キロの「のんびりコース」で行われました。

五月晴れの気持ちのよい一日となり、夫婦や友達同士、家族連れなど300人が新緑や田植えの準備



五月晴れの中、常泉寺川沿いを歩く参加者

備の進む景色の中を楽しんで歩いていました。

ウォーキングは一之宮運動場を起点に、臥龍公園、水無神社、常泉寺川沿いを進み、満喫コースでは旧位山道の一部も歩きました。閉会時にはプレゼントが当たる抽選もありました。

町内2人の画家が展示会 山腰さんと澤田さん

長年画家として作品を描き続け



大幢寺内の特設展示場を訪れた鑑賞者

ている町内の2人の画家、山腰曠さんと澤田勇さんの作品展示会が大幢寺で開催されました。4月19日から29日まで臥龍桜の開花に合わせて開かれたもの。

日本画の山腰さんは20年以上にわたり描き続けている様々な姿の臥龍桜の作品を展示。洋画の澤田さんは御岳など飛騨地域の風景の作品を展示しました。

展示会は臥龍桜を見に訪れた観光客なども加わり、多くの人が鑑賞していました。

臥龍桜苗木を女川町へ寄贈 「まち協」設立記念事業で



「桜守りの会」に苗木を渡す山本次長

一之宮町まちづくり協議会では設立記念事業として、5月6日に臥龍桜の苗木5本を東日本大震災で被災した宮城県的女川町へ届けました。

桜の町として有名な女川町では桜が津波で流失したため住民団体「女川・桜守り（もり）の会」を中心に復活に取り組んでいます。まち協では、復活のシンボルで

ある臥龍桜を贈ることで桜の町復活に協力しようと実施しました。移送は記念事業を企画した一之宮支所の山本哲夫次長らが務め、「女川・桜守りの会」の事務局長の藤中郁生さんに手渡ししました。

宮中生が臥龍桜を植樹 グラウンド西と南に18本



グラウンドに苗木を植える中学生

・宮中学校では3年生が5月8日、臥龍桜二世の苗木18本を植樹しました。女川町に苗木を贈ったことに関連して、中学生も臥龍桜の歴史や命を学ぼうと行ったもの。グラウンド西と南側に1列に植えました。

女性委員会が清掃ボラ 公民館のガラスや庭

まち健康福祉部女性委員会が一之宮公民館の清掃ボランティアを行いました。これは毎年社教女性部の時から続いている事業です。今回の清掃には委員23人が出てガラス掃除や庭の清掃を行いました。

一之宮まち協だより

第1号
平成26年6月1日
一之宮町
まちづくり協議会
広報委員会
高山市一之宮町3087
電話 53-2424

一之宮町まちづくり協議会の設立総会が4月25日に一之宮公民館で開催され、新しい形の住民自治組織が発足

することになりました。一之宮町は花里地区とともに、市の進める「協働のまちづくり」のモデル地区に指定され、1年先行して今年度の運営を目指して準備してきました。

新組織の母体となる一之宮地区連合町内会と一之宮町社教は、すでに総会を開いてまちづくり協議会に一本化することを決議しこの日を迎えました。総会には総会構成員となる代議員が出席したほか、西倉良介副市長、丸山永二市民活動部長をはじめ来賓と準備委員など関係者、またモデル地区の設立総会を参考にしようとする町外からの傍聴者も含め70人ほどが参加しました。

総会では、昨年7月の「協働のまちづくり」説明会開催以後、10回に渡る準備委員会の開催、4回の協働のまちづくり代表者会の開催、アンケートの実施や「まちづくり推進大会」の開催など経過が報告されました。

議事は稲子盛雄氏を議長に行われ、まちづくり方針、協議会規約、平成26年度の事業計画及び予算案それに役員承認が上程され、原案通り議決されました。

一之宮まちづくり協議会は、市内で最初の協働のまちづくり組織として、今後他の地区からもその運営が先行事例として注目されることとなります。

二十年後も住みやすい町づくり目指して みんなと考える、協議・改善し前進

一之宮町まちづくり協議会会長

田邊 重敏



新緑が目に見鮮やかな清々しい季節となりました。一之宮町の皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、平成十七年二月一日、旧宮村が高山市と合併し高山市一之宮町となり、今年が十年目の節目となっています。旧宮村時代から延々と受け継がれて来た伝統と行事、また、源流の森、臥龍の里の美しい景色と環境、すばらしい一之宮町に住んで幸せに思います。

十年目の節目としてこれから十年後、二十年後、一之宮町に住んで良かったと思える様な、新たな町づくりが始まりました。昨年七月より新しい町づくりを進めて行くため「協働のまちづくり準備委員会」を発足し、これからの一之宮町のあるべき形、方向について協議し、諸課題について取り組んで来ました。その結果、今年四月二十五日、「一之宮町まちづくり協議会」を設立、発足することになりました。

これは一之宮町民の皆様方一人ひとり全員が参加して頂き、協議会員として、これからの一之宮のあるべき姿、方向について活動して頂いて町づくりを進めて行く考え方です。

誰も難しい事は考えなくて、今迄やって来た活動、町内会、社教、イベント、各自主事業等をして頂いた上で、もっと良い方法があれば皆様と考え、協議し、改善し、前進的に進めて行きたいと思えます。

これから一之宮町がもっと住み良くなる様に皆様方、意見をどんどん発信して頂きたい。大いに期待しています。

往にし方（いにしえ）の言葉にもある様に、人生に定年は無いと思われます。この世を去るその瞬間まで人生の現役です。

人生の現役とは何か、様々な状況、立場、今まで生きてきた過程の中で、自らの人生を悔いなく生きる人、の事だと思えます。

人間、「本来無一物」、この世に生を受けた瞬間から人生を終える時、全て、「ハダカ一貫」人間「本来無一物」

一之宮町民の皆様方に幸あれ。

一之宮町まちづくり協議会が発足



代議員のほか、町内外から多くの傍聴者の出席を得て開かれた設立総会の様子